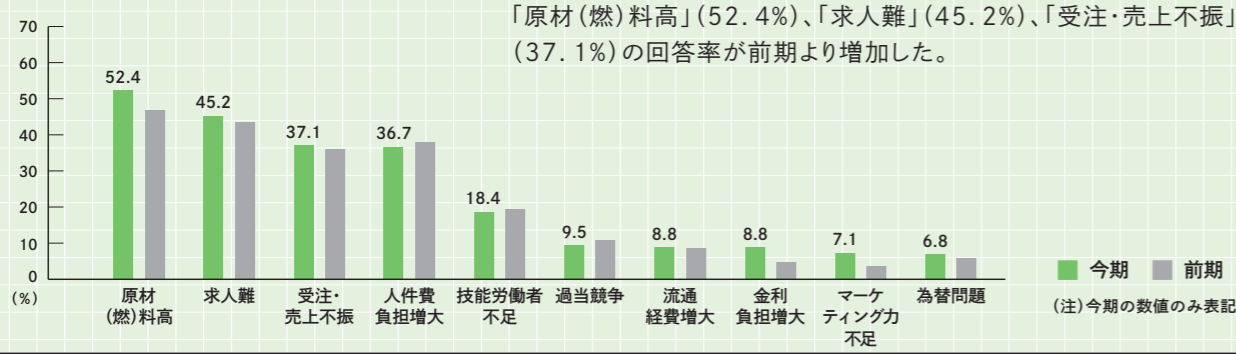


3 当面の経営上の問題点

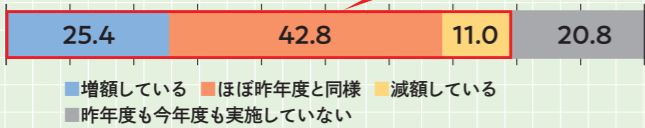


4 附帯調査 -ピックアップポイント-

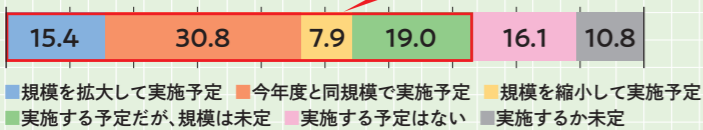
設備投資の動向について

2025年度に設備投資を実施した企業は79.2%
既存設備の維持・補修や省力化に向けた投資が進む

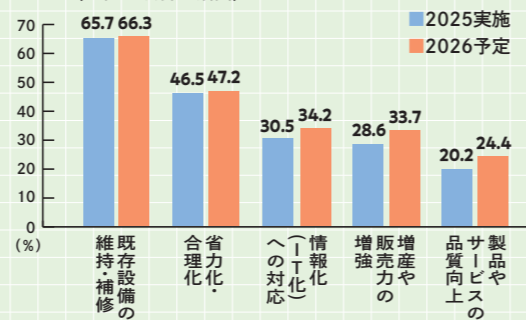
1 2024年度と比較した2025年度の設備投資の実績



2 2025年度と比較した2026年度の設備投資の計画



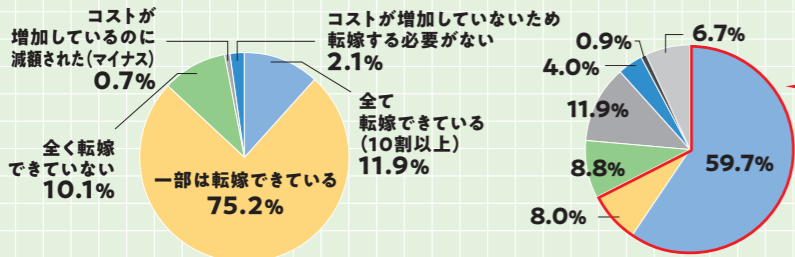
3 2025年度に実施した設備投資の目的



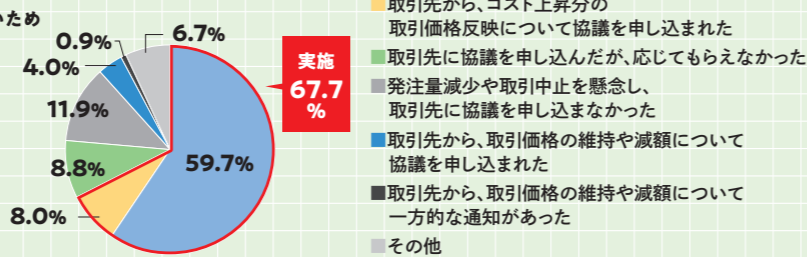
価格転嫁の動向について

価格転嫁率は昨年度から上昇も
充足度は7割近い企業が「十分でない」と回答

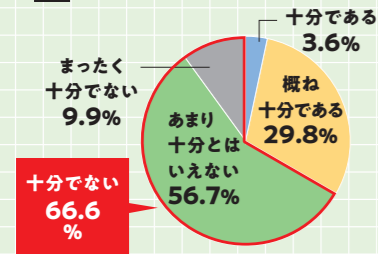
1 価格への転嫁状況について



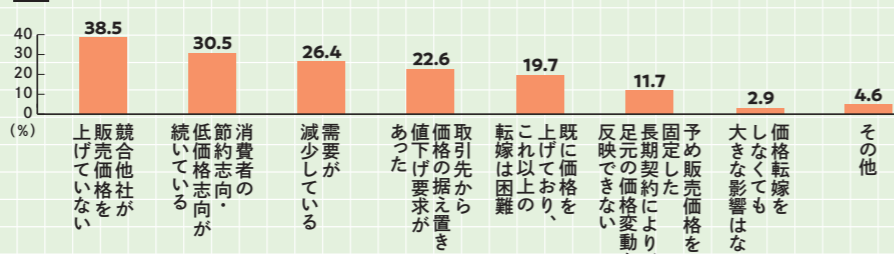
3 価格交渉の協議について



2 価格転嫁の充足度



4 価格転嫁できない理由

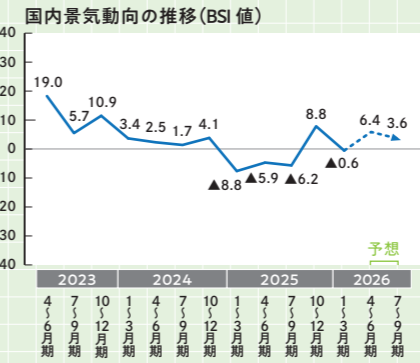


1 概要

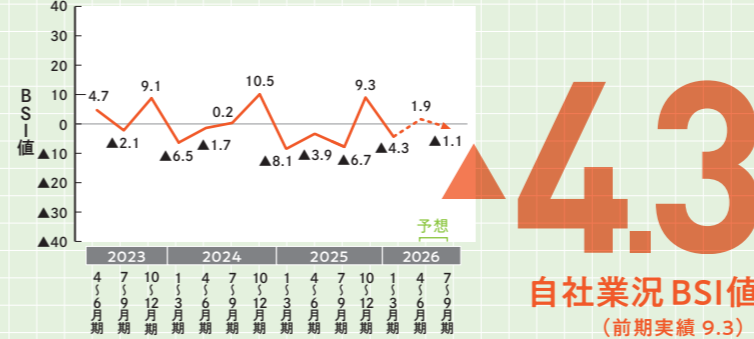
今期の国内景気BSI値は▲0.6(前期実績8.8)とわずかに下降した。2月に発足した第二次高市内閣による経済政策への期待感がある一方で、中国との外交摩擦の影響や足元の中東情勢の悪化等、世界における情勢の不安定化への懸念が高まり、先行きが見通せない状況が続いている。今後の予想については、4~6月期は6.4と上昇に転じ、続く7~9月期も3.6と引き続き上昇基調で推移する見込み。

国内景気BSI値 (前期実績 8.8)

▲0.6



自社業況(総合判断)の推移 (BSI 値)



▲4.3

自社業況 BSI 値 (前期実績 9.3)

今期の自社業況BSI値は▲4.3(前期実績9.3)と再び下降に転じた。年末需要期の反動に加え、最低賃金の引き上げに伴う人件費負担や原材(燃)料高等の要因が重なり、多くの業種で落ち込みをみせた。今後の予想については、4~6月期は1.9と上昇に転じるが、7~9月期には▲1.1と一進一退で推移する見通し。

2 BSI値の総括表

(注)1~3月期のBSI値は、2025年10~12月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

京都企業の経営動向	実績		予想	
	2025年10~12月期	2026年1~3月期	2026年4~6月期	2026年7~9月期
国内景気動向	8.8	▲0.6	6.4	3.6
自社業況(総合判断)	9.3	▲4.3	1.9	▲1.1
1. 生産・売上高、工事施工高	12.8	▲6.0	2.9	▲2.5
2. 製・商品・サービス・請負価格	12.5	8.6	12.5	8.9
3. 経常利益	6.7	▲7.3	▲0.5	▲4.4
4. 所定外労働時間	10.4	▲1.9	1.4	▲2.1
5. 製・商品在庫	6.6	6.8	5.3	3.8
6. 資金繰り	0.2	▲4.5	▲1.4	▲2.3

(注)BSI値=(上昇[増加、他]-下降[減少、他])×1/2

実績

2026 1-3月期



京都企業の

BSI 値

Business survey index

需要期後の反動により国内景気・自社業況ともに下降 政権への期待と中東情勢の不安が交錯する

予想

国内景気 4~6月期は上昇に転じ、続く7~9月期も上昇基調で推移する見込み
自社業況 4~6月期は上昇に転じるが、7~9月期は再び下降し、一進一退で推移する見込み

規模別の業況

国内景気・自社業況ともにBSI値は大企業はプラス、中小企業はマイナスと明暗が分かれた
自社は規模に関わらず国内景気は上昇基調、自社業況は一進一退で推移する見通し